編者まえがき

本書に掲載された論文は、国際基督教大学アジア文化研究所が開催した二つのシンポジウムの報告をそれぞれまとめたものである。

一つは 2000 年 6 月に、比較都市史研究会（代表　鵜川馨氏）と共催した「中世都市と宗教集団」の報告である。これは、アジア文化研究所所長を長年務められ、2001 年 3 月に国際基督教大学を退任された魚住昌良教授が中心になって編集されたものである。魚住教授は本学で長く西洋中世史を教えられたが、このシンポジウムは魚住教授が、ベルリン自由大学の教授であり、比較都市史研究会の名誉会員でもあるクヌート・シュルツ氏を招いて実現したものである。その詳細については、本書に掲載された魚住教授の「シンポジウム『中世都市と宗教集団』編者あとがき」をご覧いただきたい。

もう一つは、2002 年 2 月に開催した「交流空間の変容―中・近世海上東アジア」の報告である。このシンポジウムは、本学のケネス・ロビンソン助教授が中心になって行なわれたものであり、詳細は本書に掲載された同氏のシンポジウムまえがきを参照していただきたい。会場では、朝鮮半島、中国大陸、琉球、蝦夷地と日本の交流をめぐる白熱した議論がたたかわされたが、休憩をはさんで、程農化氏の二胡と、纓田泰子氏の琴の共演が披露された。また本学の日本民俗舞踊研究家である近藤洋子講師によるアイヌ舞踊のパーフォーマンスもあり、参加者が東アジアの交流空間を体感したシンポジウムとなった。

アジア文化研究所は、今後とも「アジア」のさまざまな問題について、国内外の研究者を招いてシンポジウムを開催していく予定である。またその成果を本書のごとく『アジア文化研究』別冊として刊行し、広範かつ継続性をもった問いかけとなるよう努力していく所存である。

最後になったが、本号の編集およびシンポジウム開催に際して、研究助手である宮沢恵理子、宇野（徳田）彩子、高崎恵、孫建軍氏の尽力を得たことを記して謝意に代えたい。

2003 年 3 月 30 日

古藤　友子